

4年 国語科研究授業のまとめ（6月2日）

1 単元名及び単元の目標

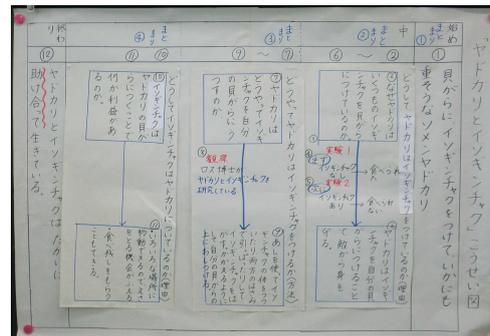
「ヤドカリとイソギンチャク」（7/8本時）

◎ 段落同士の結び付きを考えて読み、文章のまとまりをとらえる。

2 本研究授業の提案について

説明文における筆者の構成の工夫に気付かせるための手だてとして、以下のことを提案した。

まとまりの入れ替えが可能かどうかを検討させることで、筆者の工夫であるまとまり同士のつながりに気付かせる手だてを講じた。そのために、前時までには説明文の構成図を作成させ（資料1参照）「始め」「中」



「終わり」となっている全体の構成、「中」の部分の問いと答えを中心とした3つのまとまりに分ける作業を行い、文章の構成を

【資料1 構成図】

確かめた。構成図を作成していく中で、説得力のある文章にするための筆者の工夫についてもまとめることができたことは良かったと思う。しかし、その作成した構成図を本時の授業である入れ替えに活用することができず、入れ替えの可否の根拠となる観点が曖昧だったため、分かりづらいものになってしまった。また、入れ替えることが本当にまとまりのつながりを意識させることに有効であったかという疑問も生じた。「筆者はなぜこの順序で書いたか」など、大きな発問を投げかけることで、押さえさせたかった構成の工夫に気付かせることができたのではないかと感じた。

また、構成の工夫について気が付いたことを意見交換し合うためにグループ学習を取り入れた。考えを発表し合うことで、理由が書けなかったり不十分だった児童に関しては自分の考えを整理したり修正することにはつながっていた。しかし、互いに発表し合うだけで終わってしまっていたため、そこから話合って考えを深めるには至っていなかった。発表し合うだけでは、グループ学習にはならない。話合う必然性がある場面を設定し、話合ったことで意見が深まるようなグループ学習を行っていきたいと感じた。

3 本研究授業の授業技術課題について

(1)板書を構造化して行うことで、1時間の流れを押さえさせることを課題として取り組んだ。前時までには学習したことを黒板の横に掲示したことで、これまでの学習の振り返りができるように工夫したが、それを本時の中に生かし切ることができなかったことが課題としてあった。また、板書計画ではねらいとまとめを板書し、1時間の学びを視覚化できるようにしていたが、時間が足らず、まとめを板書できなかったことが大きな課題となった。見通しを持って授業を進め、ねらい、学習したこと、まとめが板書から分かるようにしていきたいと思う。

(2)机間指導での見取りを意図的指名に生かすことを課題とした。机間指導しながらA評価の児童の見取りと、考えがまとまらない児童への個別指導を行うことができた。しかし、考えをまとめきれない児童も多く、発問の吟味が必要だったと感じた。

4 次回の研究授業へ向けて

以上の点をふまえ、次回の授業研究では以下の点を意識した授業展開を考えたい。

- ・本時のねらいを焦点化させ、それを生かしたまとめを板書する。
- ・深まりのある話合い活動にするために話し合う内容や話合わせ方を工夫する。